令和６年度「明日も行きたくなる学校づくりプロジェクト」事業　成果報告書

１　指定校・指定校群　　（　　観音寺市立中部中学校　　）

２　実施の内容

①　いじめゼロ推進プロジェクト

夏休みに『「いじめゼロ子どもサミット2025」実行委員養成セミナー』に参加し、今年のテーマ「I LOVE ME！」から「自分を大切に、そして、友だちを大切に」という気持ちを出発点として、「いじめをなくすためにはどうすればよいか」を考えた。リフレーミングや友だちの良いところ見つけの活動を通して、自己肯定感や自尊感情を高めることで、「I（自分）」を「愛」することで「相」手も大切にできることを学んだ。

その経験をもとに１１月の「いじめゼロ強調月間」には、学校で生徒会の月目標を「自分や友だちを大切にしよう」にし、２つのことに取り組んだ。１つ目は、全校集会においてセミナーで学んだ報告だけでなく、いじめゼロクイズを行うことで全校生のいじめについての認識を改めて確認した。２つ目は、自己肯定感や自尊感情を高める活動として、各学級でお互いに「ありがとうメッセージ」を贈りあう活動を行った。

②　心のＳＯＳ早期発見プロジェクト

次の４つの活動を行った。

・　各学年が必要としている内容をテーマとして、ＳＣとゲーム

〈１年生〉「聞く・話す」といった基本的なコミュニケーションスキルを身に付ける

自分が引いたカードに書かれているものについて友だちに色や大きさを質問して、「はい」か「いいえ」で答えてもらい、何が書いてあるか当てる「わたしは〇〇でしょう」

〈２年生〉「聞く・話す」といったコミュニケーションスキルを高める

みんなと声を合わせる楽しさを感じることができた「あとだしじゃんけん」や、話のきっかけ作りを学ぶことができた（あいさつや好きなものを聞く）「探偵ゲーム」

〈３年生〉、レジリエンス（心の回復力や逆境を跳ね返す力）を高める

身近な話題に対する友だちの考えに共感し、違いに気づく「へやのよすみ」、グループの一人がじゃんけんをし、負けたら助けを求めて迎えに来てもらう「カモーン」

・　全学年で「ＳＯＳの出し方」についての授業

自分の心のＳＯＳに気付いたり、自分ではどうしようもできなくなった時に、誰かに助けを求めたりできることを目的とした授業をした。

・　１年生全員によるＳＣとの個人面談

３人のＳＣで分担をして、１人５～１０分程度で昼休みや放課後を利用して１年生全員と個人面談を行った。終了後、内容については担任と情報共有を行った。

・　ソーシャルスキルトレーニング（以下ＳＳＴ）

生徒が対人関係のスキルを身に付けるために、ＳＳＴを行った。２学期には２種類のゲームを行った。「はぁっていうゲーム」では、お題に書かれている同じセリフをグループの全員が違うシチュエーションで演技し、どんな状況かを予想する活動をした。ボードゲーム「フレンドシップアドベンチャー」では、質問カードに答えながら５つの島巡りをして宝物を集めた。ゲームを進めていく中で、質問カードに書いてあることに対して自分の気持ちや意見を述べた。

③　魅力ある学校づくりプロジェクト

学校生活をより豊かに快適にするために、講演会や生徒が考えたボランティアを生徒が募集し実施する活動を行った。こうした活動を通して、将来への夢を広げたり、生徒一人一人の自己有用感を高めたりすることができた。

・　講演会「オール１の落ちこぼれ、教師になる」

講師（宮本延春氏：中学校卒業の成績はオール１、大工の職に就くも 18 歳で天涯孤独に。23 歳で新たな目標を掴んで学びなおし、36 歳で母校の高校教師になる）をお招きし、これまでの壮絶な人生経験から学んだ「当たり前」と思っていることは実は「特別なこと」で、感謝することを忘れずに毎日「ありがとう」を言葉にする大切さや、人にはそれぞれの成長スピードがあって、他の人と比較してあきらめずに「挑戦する」ことの大切さなどについての話を聞いた。

【オール１の落ちこぼれ
教師になる】

・　運動会実行委員ボランティア

これまでは、用具係は〇〇委員が担当するなど、教師主導で行っていたが、それを廃止し、希望する生徒が希望する役割に付けるように変更した。可能な限り調整はせず、生徒の希望に任せた。実行委員には 100 名以上の生徒がボランティアとして立候補し活躍した。

・　運動会に向けての除草ボランティア

運動会に向け早朝 20 分程度、運動場の草抜きを３日間行った。日が経つにつれて参加者が増加し、３日間で延べ 700 名ほどの生徒が参加した。草抜きをしながら会話も弾み、ボランティアを楽しめた。

・　挨拶ボランティア

日頃は挨拶をしていない他学年の生徒とも、明るく爽やかな声で挨拶できていた。

・　資源回収・エコアダプトロードボランティア

資源回収は、ＰＴＡの活動であるが、希望した生徒が手伝った。親子や地域ごとのグループでの参加も見られた。資源回収の後、学校付近の市道の清掃を行った。たくさんの草やゴミが集まり、やりがいを感じていた。

・　校歌歌い隊

コロナ禍で歌う機会が少なくなっていた校歌を歌い、学校を盛り上げようという取組で 130 名ほどの生徒が参加した。

・　合唱盛上げ隊

全校生徒の中から有志が集まり、合唱コンクールの運営とともに特別に練習してきた歌を披露した。盛上げ隊からは「先生も一緒に歌ってほしい」という要望があり、放課後、先生の有志も練習に参加し、合唱コンクール当日に生徒とともに合唱し大いに盛り上がった。

【 いじめゼロサミット
全校集会での報告　】

【ボードゲーム
フレンドシップアドベンチャー】

【 合唱盛上げ隊
本番の様子 】

３　成果

（１）児童生徒の自発的・主体的な活動の様子（□は生徒の感想より）

①　いじめゼロ推進プロジェクト

□　全校集会の報告では、９割の人が「仲間はずれ、無視、陰口」をしたことがあると答えていたことに驚いた。自分にそのつもりがなくても相手の受け止め方次第で「いじめ」になることがわかり、自分の発言や行動を見直そうと思った。

□　「ありがとうメッセージ」では、照れくさくて書きにくかったけど、実際にもらってみると具体的にいろいろ書いてくれていてうれしかった。

②　心のＳＯＳ早期発見プロジェクト

□　はじめは難しかったけど質問をしていくたびにだんだん分かってきて、質問をするのが楽しくなっていった。周りを気にして始めは自分から発言できなかったけど、違う発想があることを楽しみながら人との関わり方を学ぶことができた。

□　ＳＯＳの出し方の授業では、「辛いことは我慢しなくていい」「助けを求めることは恥ずかしいことではない」「信頼できる大人に相談しよう」と思うことは大切であることがわかった。

□　ＳＣとの面談では、いろいろな話を聞いてもらったことで、何か心配なことがあれば知っているカウンセラーの先生に相談することができる、学校には相談する場所があるという安心感をもつことができた。

③　魅力ある学校づくりプロジェクト

□　講演を聞いて、周りにいてくれるたくさんの人に感謝しつつ、くじけそうになっても諦めずに少しずつ歩いていきたいと思った。

□　運動会の実行委員をやってみて、自分たちが作った、自分たちの運動会だという思いが強くなったし、来年もやってみたいと思った。

□　運動会の生徒会種目では、先生方にも参加してもらって縦割りでチームをつくり、異学年と協力して競技できたので楽しかった。

□　合唱コンクールでは「合唱盛上げ隊」として、合唱コンクールの運営に関わったり、先生方と一緒に合唱を披露したりすることができて楽しかった。

□　２つのゲームでは、言葉以外の情報を工夫して伝えたり、伝わり方を考えて話したりすることの大切さに気付くことができた。普段あまり話をしたことがない級友と交流することができ、自分とは異なる意見をもっていることを知り、級友の発言に対して自分の意見を述べることもできた。

（２）総括

・　プロジェクトによる取組を始めて以降、昨年度に比べて本校の課題として挙げていた「暴力行為」は半数に減少、「いじめ認知」については約３割の減少がみられた。

・　「子どものための学校調査」アンケートでは、以下の表に示した項目で上昇が見られた。これらもプロジェクトの取組による成果であると捉えている。

項目　　調査日	6/27	11/28
この学校では、イライラしても上手に気分転換したり、ストレス解消したりする方法を学んでいる。	50.8	52.0
この学校では、けんかやいじめなどの問題を解決する方法を学んでいる。	50.9	51.9
この学校では、他の人の気持ちを理解するための方法を学んでいる。	53.9	54.1
この学校の生徒は、クラスの中で、だれでも同じように話したり聞いてもらったりする機会がある。	53.3	54.4

【偏差値５０を基準としている】

・　ＳＣについては、全員面談となると１人当たりの時間が短かったことや、生徒の状態や希望にあった時期に面談時間を合わせることができなかったことは課題である。しかし、これまでほとんどの生徒がＳＣと話をしたことがなかったので、「困ったことがあればいつでも相談できる」という意識を持てたことは成果である。
・　実行委員やボランティアについては、３年生や生徒会主体となってしまうことが多かったので、全校生から意見が取り入れられるような工夫をしていく。
・　各プロジェクトに本格的に取り組んでから１年間であるが、上のアンケートからもわかるように生徒は少しずつ変容しており、一定の成果が見受けられる。今後も各プロジェクトを継続・発展させていくことで、本校の課題をさらに克服していけるよう教員も含め、生徒の意識も高めていきたい。